



全国公立学校教頭会通信 第11号

きずな

令和6年度 全国公立学校教頭会研究大会
高知大会 特別課題 特別分科会Ⅱ

発行 令和6年9月1日
全国公立学校教頭会 広報部
電話： 03-3436-4868
Mail： zenkokyo@kyotokai.jp
HP： <https://kyotokai.jp>

令和6年度、『第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会』が、7月31日～8月1日に開催されました。全公教広報部員も各分科会に参加しましたので、取材した概要をお伝えいたします。

特別課題 「開催地の創意を生かした課題」

『少子高齢化の地域におけるチーム学校づくり』～中山間地域における地域とともに取り組む学校づくり

■講師-1 高知県の町立伊野南小学校 校長 川上 確也 先生

■講演主題 (サブテーマ)

「中山間地域の資源を生かした学校づくり」～多様な体験活動を通して～

■概要

地域の資源を生かした多様な体験活動を通して、児童が地域の方々とかかわることで、人間関係能力や自尊感情、規範意識等の向上につながることを、実例をもとにお話しされた。本の読み聞かせによる間接体験によってこころの脳を育むこと、集団宿泊的行事の価値についても、データをもとに言及された。

■グループ協議



志をもたせることにもつながる、地域のよさを生かした体験活動について、講義をもとに、教育活動の中でどのように位置づけるか、取組をどのように継続させていくか等協議が行われた。体験したことを次の学びにつなげていくためにカリキュラム・マネジメントが必要であること、取組を継続させていくために経験の少ない教員を育てていくことが挙げられた。

■指導・助言

地元のことをあまり知らない若い世代もいるので、教員の育成として夏季休業期間などを利用して、様々な体験をしてもらうこと、意図的に情報交換を行うことが必要であると話をいただいた。また、取組については計画的に行うことが必要であると話があった。

■講師-2 周南公立大学 教授 清原 泰治 先生

■講演主題 (サブテーマ)

「熱き志は土佐の山間より出づ」

■概要

確かな学力をつけるためには、地域とともに活動し、地域から学ぶことが必要であることを、大学での実践からお話しされた。地域から大学生が「ありがとう」と言ってもらった体験から、「域学共生」をテーマに地域と大学がともに活動することの価値を話された。地域の方々は「実務家教員」であり、専門家として教育に携わっていただくことの必要にも触れられた。

■グループ協議

地域の方との取組をどのように継続させていくか、地域とともに学ぶ仕組みづくりをどのように行うか等の協議が行われた。児童の発達段階に応じて、最初は地域のよさを感じることから始めること、総合的な学習の時間に地域とのかかわりを組み込むことなどが挙げられた。

■指導・助言



キーパーソンになる地域の方と一緒に取組を考える、経験の少ない教員にもかかわってもらうことなどにより、担当の一人が行わないことが、地域の方との取組の継続につながると話をいただいた。また、学校は地域の課題を把握することが大事であることにも言及された。

